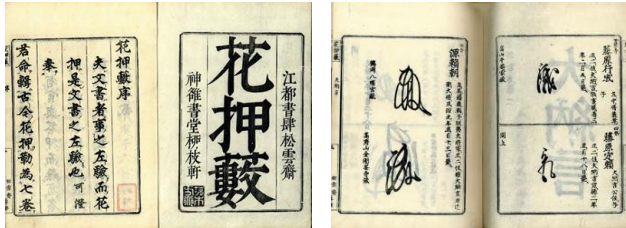


かおうそう・ぞくかおうそう

## #47 花押藪・続花押藪

作者：丸山可澄（まるやま・よしずみ 1657-1731）

刊行：[正編] 元禄3年（1690）成立、元禄5年（1692）刊行  
[続編] 宝永5年（1708）成立、宝永8年（1711）刊行

[739. 9/1]

 解題

## ■ 内容

第2代水戸藩主徳川光圀（とくがわ・みつくに 1628-1700）の命により編纂された花押（書き判）の図鑑。正・続ともに7巻7冊からなり、正編773人、続編709人の花押が、天子、親王、法親王、執柄、大臣、贈大臣、大納言、贈大納言、中納言、贈中納言、参議、二位三位、四位、五位、無官位、士庶、积家、連歌師に分類し掲載されるが、正続ともに比較的武家のものが多い。花押は、原本または写本から模写したもので、その文書の所蔵者も記されるが、文書自体の出典は記されない。

本書は、『大日本史』編纂過程で作成されたものである。『大日本史』は、史料を収集し比較対照したり、文書の真偽鑑定を行うなど、客観的な記述に努めた編纂姿勢が指摘される。その過程で派生的に作成された資料が多数あり、本書もその1つである。

本書は、現在ではその内容に検討を要する部分もあるようだが、当時の成果としては質・量ともに高く評価されており、のちの我が国の古文書学発展に寄与したとされる。

## ■ 作者

編者は、彰考館の史官丸山雲平可澄（号・活堂）。『大日本史』の編集や著述に直接関わる立場ではなかったものの、この編纂を縁の下で支えた人物の1人で、史料探訪（九州中国北陸、奥羽）にも参加している。

田代五右衛門乗久の次男として、常陸国久慈郡土木内村（現・常陸太田市、日立市）に生まれた。父・乗久が光圀に仕えており、可澄も延宝2年（1674）彰考館に入館。史館物書（書記役）から初代管庫となり、終生その役目を果たした。学者としては、『花押藪』編纂でその素養を培われたとされる系譜学者としての顔のほか、神道学者としての顔を持ち、今井桐軒（いまいとうけん 1646-1683）に師事したという。前者の成果として『花押藪』のほか、『諸家系図纂』『本朝姓氏類纂』など、後者の成果として『神道集成』『泰伯論』などがある。

可澄は、30代のころから耳の病気を患っていたとの記録があり、奥羽地方への史料探訪の旅は、光圀より、湯治を兼ねて行くよう命じられたとのエピソードがある。

## ■ 出版

正編は、刊記がないが「大日本史編纂記録」を根拠として元禄5年4月刊行とみられる（なお、続編の刊行年は刊記による）。また、当館所蔵の正編は、見返に「神雒書堂柳枝軒」「江都書肆松雲齋」と併記されており、両書肆の相版で出版されたものと思われる（続編は柳枝軒の単独版）。

彰考館編纂書は、同2書肆による相版が他にも多数確認されている（『難太平記』『奇異雑談集』『医宗必读』『参考太平記』『参考保元平治物語』『妙薬单方』『救民妙薬』『農業全書』『草露貫珠』）。このうち、松雲齋については、上方中堅書肆である柳枝軒の江戸における売捌書と見られて、これまであまり注目されてこなかった。しかし、近年の研究では、この書肆が富野治（次）右衛門勝武とする人物のもので、蔵版する書籍もある書肆であったことが報告されている（倉員正江）。

ところで、彰考館は多くの編纂書を世に出したが、これらの出版利益（版權）は書肆側にあったようである（倉員）。

## ■ 当館所蔵本について

当館所蔵の正統『花押藪』には、「堀氏文庫」の蔵書印がある。『内閣文庫蔵書印譜』によればこの印は、信州飯田藩主堀家の蔵書印で、堀親義（1814-1880）の時代に使用した印であろうか、と推測されている。

また、当館所蔵の続編は、復刻本には収録がある人物9人（四位1人、五位7人、士庶1人）の掲載箇所が空欄となっている（国会本では、うち4人が空欄）一方、復刻本や国会本には見られない「源綱重」（贈中納言）の花押が掲載されている。さらに、復刻本と当館所蔵本とで、異なる花押が掲載されている人物（五位・源康信）があるなど、処々に内容の異同が見られ、刊行後も修正が加えられたものと考えられる。

## 📖 本文を読む

< 版本 >

『花押藪』丸山可澄輯 松雲齋・柳枝軒 [1692] [739.9/1/1] - [739.9/1/7]

『續花押藪』丸山可澄輯 柳枝軒 1711 [739.9/1/2-1] - [739.9/1/2-7]

< 復刻 >

『花押藪』上・下 丸山可澄編 文献出版 1976 ※当館未所蔵

## 📖 参考文献

荻野三七彦「解題 花押藪・続花押藪について」（『花押藪』上 丸山可澄編 文献出版 1976） ※当館未所蔵

高橋正彦「花押」（『日本古文書学講座』第1巻 雄山閣出版 1978）

[210.08/118/1]

『水戸史學先賢傳』水戸史学会編 1984<水戸史学選書> [210.01/17]

久保田収「水戸義公の學問的業績」（『大日本史の研究』日本學協會編 1997 <水戸学集成5>） [21.58/5/5] ※復刻版 原本発行は1957年

倉員正江「彰考館編纂書の出版をめぐる諸問題」（『江戸文学』no.42 ぺりかん社 2010） ※当館未所蔵